和白干潟通信
愛して、わじろ
No.135
２０２０年１０月１３日
発行: 和白干潟を守る会
〒811-0202 福岡市東区和白1-14-37
Tel/Fax.092-606-0012
http://wajirohigata.sakura.ne.jp/

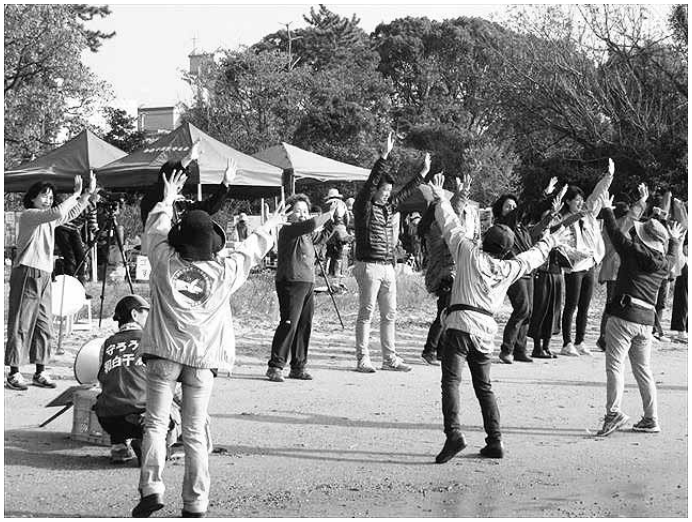
新型コロナウイルス感染の収束を願って！！

今年3月より新型コロナウイルス感染の拡大が続き、福岡でも感染者が増え続けました。新型コロナウイルス感染症にかかられた皆さまのご回復をお祈り申し上げます。また医療従事者の皆さまをはじめ、感染拡大防止にご尽力いただいている皆さまに深く感謝いたします。和白干潟を守る会でも感染拡大防止のために、イベントや活動が中止や延期になりました。緊急事態制限が解除された6月からは、毎月の定例会議とクリーン作戦を感染に気を付けながら再開しました。しかしその後も感染拡大は止まりませんでした。和白干潟通信１３５号は7月に発行予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、１０月に延期し、今回発行いたします。

9月からは、全国的に感染者数が少なくなってきています。このまま収束する事を心より願っています。

「第３２回和白干潟まつり」中止のお知らせ

今年の１１月開催予定の第32回和白干潟まつりも、新型コロナウイルス感染防止のため中止することを決定しました。今回は和白干潟まつりを今後も引き継いでいくために、第1回から現在までの和白干潟まつりを振り返ってみたいと思います。次ページに掲載しています。



2018.11.25 第30回和白干潟まつり 「 手をつないで」

新型コロナウイルス感染症とともに、梅雨や台風の時期になると大きな自然災害も毎年のように起こるようになりました。私たち人間の活動がこれらの禍を引き起こしているのではないでしょうか？ 開発優先の社会に、壊された山や森などの自然に住んでいた野生動物が人間社会に近づいてきて、ウイルス感染が広まっているとも言われています。自然災害の巨大化も、地球温暖化とともに、昔から自然と共存してきた生活のあり方が変わり、山を開発し、川にダムを作り、川の堤防を高くして、山に降った雨を一挙に川を伝って海に捨てるようなやり方が、山の雨を地面にしみわたらせ少しづつ流しながら田んぼに溜め、またしみこませて川に流すような仕組みを壊してしまった結果ではないでしょうか？今私たちの経済優先の社会構造を改めていけるかどうかが、私たちに問われています。

和白干潟を守る会 代表　山本 廣子

「和白干潟まつり」のふりかえり

（有江 圭子）

バードウオッチング

＜あゆみ＞「和白干潟まつり」は、和白干潟を守る会が設立された翌年1989年にスタートしました。「多くの人たちと一緒に和白干潟を守っていきたい」という思いで始まりました。渡り鳥がたくさんやってくる季節に和白干潟の豊かな自然を多くの人に知ってもらい、自然保護の大切さと開発のあり方を考えてもらうことを目的としています。第1回目からグリーンコープ生協福岡東支部と共催で開催しています。日本野鳥の会福岡支部、博多湾会議、団体会員企業の協賛やマスコミ各社の後援などたくさんの方々の協力で、第30回まで途切れることなく続いてきました。

＜テーマの移り変わり＞　和白干潟が環境省のラムサール条約登録湿地の候補地に選ばれた第16回（2004年）からは「ラムサール条約登録をめざして」というテーマで、干潟まつり参加者で毎年「ラムサール宣言」を採択しています。

回	年	テーマ	(副　題)	参加人数
第1回	1989	和白干潟に来ませんか！		832
第2回	1990	和白干潟に来ませんか！		1,500
第3回	1991	和白干潟に来ませんか！	ミヤコドリが今年は13羽も来ていますヨ！	900
第4回	1992	ー和白干潟をみんなの手で包もうー		1000
第5回	1993	未来に残そう博多湾	いのち輝け和白干潟	600
第6回	1994	和白干潟の自然に親しもう	壊れた自然はもどらない	1,000
第7回	1995	自然とのふれあい和白干潟で遊ぼう！	干潟の自然や地球環境を考える一日にしよう	800
第8回	1996	自然とのふれあい和白干潟で遊ぼう！	干潟の自然や地球環境を考える一日にしよう	600
第9回	1997	自然との共生を求めて！		650
第10回	1998	自然との共生　カニや鳥と遊ぼう！	ゴールドマン環境保護賞受賞 山下弘文氏を迎えて	600
第11回	1999	自然と友達になろうー	カニや鳥も仲間	718
第12回	2000	21世紀へ残そう！！和白干潟		600
第13回	2001	★命あふれる博多湾をめざして！	(福岡県21世紀記念事業)	500
第14回	2002	★鳥もカニも大好き！和白干潟		600
第15回	2003	★祝！！国指定和白干潟鳥獣保護区		500
第16回	2004	★ラムサール条約登録をめざして！		600
以降第30回(2018年まで)		★ラムサール条約登録をめざして★		400～500

自然あそび

干潟の生物観察

植物観察

＜参加人数＞　第2回目は同時期にJAWAN（日本湿地ネットワーク）の全国大会が福岡であったので、特に参加人数が多かったです。第16回以降も毎年400人～500人の参加があっています。

＜内 容＞　初回から専門家の講師による自然観察会（野鳥観察、干潟の生き物観察、植物観察、自然遊び）を行っています。海の広場のステージでは、出演者は初めは多くありませんでしたが、今ではコーラス、マジック、ミニ劇場、器楽演奏、紙芝居などをしています。バザーの食べ物やフリーマーケットなどの出店、市民運動の展示、生き物や鳥の写真、観察会の様子の展示は毎年充実しています。現在毎月1回行っている「クリーン作戦」は第1回干潟まつりの時から始まりました。

ステージ

＜最近のできごと＞　2018年は30回記念のくす玉割り、永年参加者表彰、新しいブース（お絵かきコーナー、自然遊びコーナー、マリンワールドのタッチプール）などの新しい企画をしました。昨年（第31回）は雨天のため、今年（第32回）はコロナウイルス感染症拡大防止のために残念ながら中止となりました。

★ 来年こそはぜひ「和白干潟まつり」をしたいですね！！

★コロナ禍における守る会の活動の様子 ★ （中嶌 伸子）

新型コロナ感染症の感染拡大を受けて3月から5月まで会の活動は多くのものが変更、中止となりました。制約がある中で、活動を続けてきました。

定例会議

★定例会議

3月から5月までは事務所に集まらずに、会議資料をメールで送り情報を共有しました。6月からは感染予防対策をし、印刷した3月から5月分の資料も配布し、討議をして、以前の形に戻りました。

5月のクリーン作戦

★クリーン作戦

3月から5月は外部へ呼びかけることはせず、参加できる会員のみで行いました。参加者は3月は5名（ごみ6袋回収）、4月は5名（ごみ7袋回収）、5月は9名（ごみ54袋回収）でした。6月14日のラブアースクリーンアップは中止でした。6月からクリーン作戦を再開するにあたって、感染防止のための取り組みについてホームページに掲載しました。6月は高校生も参加してくれて104名の参加でした。水質調査・砂質調査は継続して行いました。

★自然観察会

4月、5月に予定されていた観察会は中止となりました。4月予定していた自然観察会グループ会議も秋に延期となりました。5月24日に予定していた自然観察ガイド講習会「和白海岸の海浜植物を学ぼう！」講師内田泰三氏（九州産業大学建築都市工学部教授）は21年5月に延期となりました。10月からは観察会の申し込みを受けています。コロナ感染状況により、観察会ができるかどうかを決めていきます。

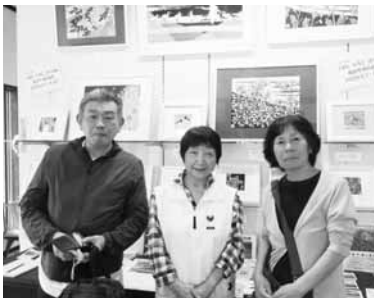
★通信発行

4月の134号発送会は事務所に集まらずに、各自通信を持ち帰って折ってきてもらい、まとめて発送しました。手配り分の通信は配布者に取りに来てもらいました。7月発行予定だった135号は10月に発行延期とし、発行延期のお知らせの手紙を発送して、ホームページにも掲載ました。

アオアシシギ

★イオン「イエローレシートキャンペーン」

4月に予定されていたイオン香椎浜店での「2019年度イオンレシートキャンペーン」贈呈式は中止となりましたが、個別に贈呈されました。4月、5月はイオンレシートキャンペーン自体が中止、6月からイオン香椎浜店ではキャンペーン自体は実施でしたが店頭活動は中止となっています。


和白干潟のきりえ展

★くすだひろこきりえ展「和白干潟の自然」

5月1日から30日までレストラン「花もも」で開催しました。「花もも」の店内は換気もよくて、5月からはテイクアウトのおいしいお弁当の販売もありました。例年のように多くの方が来られるのは無理でしたが、近くの方が見に来てくださって嬉しかったです。（山本）

★和白海岸探鳥会

担当者が集合場所に行き、来た人に中止を知らせ、担当者は各自で観察し記録をとることにしました。熱中症も考慮し9月までは一般参加は中止しました。10月からは再開予定です。

★鳥類調査

調査前の集合をやめ、7名が各自担当箇所での調査を行いました。調査終了後に調査記録と写真を送ってもらい、集計しました。

調査のようす

ダイシャクシギ

調査のようす

ミサゴ

★和白干潟の自然だより★

（山本 廣子）

ハマボウ

アオイ科。絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）。海岸の砂泥地に生える落葉低木です。フヨウやムクゲの仲間です。7月頃に鮮やかな黄色い花が咲きます。20年程前に和白干潟の南側にある牧ノ鼻海岸で1本のハマボウの木を見つけました。その後和白干潟を守る会で見守ってきましたが、今や牧ノ鼻には500本ほどのハマボウの群落ができました。向い側の和白干潟沿岸にも種が流れ着き、海の広場にも20本ほどのハマボウの木が生えて群落を作っています。唐原川河口や砂洲でもハマボウが根付きました。夏には黄色い花がたくさん咲き、和白干潟を美しく縁取りました。ハマボウは和白干潟の夏の花になりつつあります。

ハマボウ

チゴガニ

コメツキガニ科。甲幅10mm。全体に青っぽい褐色で、胸はコバルトブルー、ツメは白く透明感があり、なかなか美しいカニです。宮城県以南南西諸島まで分布。内湾や河口干潟で淡水の影響が強い河口の泥地にすんでいます。夏の繁殖期には雌雄どちらも、周りのカニと同じ調子でツメを振ります。一斉に白いツメを上げ下げする様子は、まるでラジオ体操をしているかのようです。以前は唐原川河口の砂泥地にたくさんすんでいましたが、和白干潟沖の人工島工事が着工されて、海の中道からの砂が流れ込み、唐原川河口の泥地は砂が被り、砂地へと変わりました。そこに住んでいたチゴガニやハクセンシオマネキは、少し唐原川上流に移りました。

チゴガニ

スズガモ

海ガモ類。カモ科。全長45cm。冬鳥として渡来し、和白干潟で越冬しますが、今夏はめずらしく雌雄5羽が越夏しました。唐原川河口付近や雁ノ巣海岸で、よく見られました。時々越夏する冬鳥がいますが、和白干潟で繁殖しているようではありません。北海道の湖沼には夏期に相当数が残っているそうですが、繁殖は未確認だそうです。いつもは冬に見られる鳥が夏にいるのは不思議な感じがします。季節により移動して繁殖したり越冬したりしている渡り鳥ですが、そうしない鳥たちもいるのでしょうね。人間社会のことも考えさせられました。

スズガモ

★秋の和白干潟のしぜん情報★

秋にはアシに穂が付きだんだん膨れてきます。ハマサジやウラギクの花が咲き、ハママツナやイソホウキギなどが紅葉します。樹林帯のハゼやナンキンハゼ、ハマボウも紅葉します。

アキグミやセンダン、シャリンバイやトベラなどの木の実がみのります。和白干潟沿岸が赤く色づいてきて美しいです。アシ原ではオオジュリンなどもやってきます。

今夏は異常高温の日が長く続きました。アオサは6月頃から和白干潟沖合で育ち、8月から和白干潟沿岸に漂着してきました。特に和白川河口や奈多護岸下や雁ノ巣海岸に多く、小さくちぎれて腐り始めました。今夏はアサミドリシオグサも多く発生しました。9月末には、海の広場沿岸でもアオサが多くなりました。

8月から9月にはキアシシギなどの秋の渡り鳥が立ち寄りました。10月には淡水ガモや海ガモが飛来し、ミヤコドリやクロツラヘラサギも訪れます。9/15にミヤコドリ2羽が初認です。10/3にクロツラヘラサギ1羽が初認です。12月にはツクシガモが飛来して和白干潟の冬鳥がそろいます。たくさんの冬鳥たちに会えるのは楽しみですね。

和白干潟は自然の宝庫

（山本 廣子）

■海岸本来の姿残す和白干潟（植物）

ウラギク

戦後日本全国で4割以上の干潟が埋め立てられてしまいました。自然海岸のある和白干潟沿岸は、海浜植物や塩生湿地植物の貴重な生育場所です。希少種としては、右のものが知られています。またハマニンニク（九州では和白海岸にのみ自生）とハマアカザは日本の南限となっています。海浜植物の後背にはテリハノイバラ・ハマゴウなどの低木群落があり、その後背地にはトベラ・シャリンバイ・マサキ・センダン等とクロマツ林があります。アシ（ヨシ）原奥の淡水の湿地では、ヒトモトススキの大きな群落地があり夏に黄土色の穂を付けます。海浜本来の姿が残されている貴重な場所です。

名　前	環境省ﾚｯﾄﾞﾘｽﾄ	福岡県ﾚｯﾄﾞﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸ
シバナ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠB類
ウラギク(ハマシオン)	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠB類
ハマサジ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
フクド	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
ハマオモト		絶滅危惧ⅠB類
ハマボウ		絶滅危惧Ⅱ類
ハマニンニク		絶滅危惧Ⅱ類

■東アジアの渡り鳥の渡りルートに当たる和白干潟（鳥類）

和白干潟は旅鳥や越冬する鳥たちがたくさん訪れています。和白干潟で観察される鳥のうち「希少種」は、下記の通りです。 ミヤコドリは江戸時代から和白干潟付近に渡ってきていることが「筑前国産物絵図帳」に書かれています。1980年から2000年代頃には和白干潟はミヤコドリの渡来地として有名でしたので、和白干潟のシンボル鳥として和白干潟を守る会の「会鳥」に指定しました。 現在は20羽程が毎年越冬しています。クロツラヘラサギは1990年代初め頃から見られるようになり、最近では15羽程が和白干潟で越冬しています。

名　前	環境省ﾚｯﾄﾞﾘｽﾄ	福岡県ﾚｯﾄﾞﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸ
クロツラヘラサギ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類
ホウロクシギ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
コアジサシ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
ハヤブサ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
シロチドリ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
ツクシガモ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
オオソリハシシギ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
ミサゴ	準絶滅危惧	
ハマシギ	準絶滅危惧	
ヘラサギ	情報不足	絶滅危惧ⅠB類

名　前	福岡県ﾚｯﾄﾞﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸ
ミヤコドリ	絶滅危惧Ⅱ類
ダイシャクシギ	絶滅危惧Ⅱ類
ホオジロガモ	絶滅危惧Ⅱ類
カンムリカイツブリ	準絶滅危惧
ミユビシギ	準絶滅危惧
オオヨシキリ	準絶滅危惧

ミヤコドリ

クロツラヘラサギ

■底生動物にも沢山の希少種が

和白干潟は主に砂質の干潟です。和白干潟の底生動物のうち「希少種」は下記の通りです。

ハクセンシオマネキ

ウミニナとツボミ

名　前	環境省ﾚｯﾄﾞﾘｽﾄ	福岡県ﾚｯﾄﾞﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸ
シオマネキ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類
ハクセンシオマネキ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
オカミミガイ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
キヌカツギハマシイノミ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
ウミニナ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
フトヘナタリ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
ツボミ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
オオノガイ	準絶滅危惧	準絶滅危惧

名　前	福岡県ﾚｯﾄﾞﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸ
ウモレベンケイガニ	絶滅危惧Ⅱ類
ツバサゴカイ	絶滅危惧Ⅱ類
ハマガニ	準絶滅危惧
ヒメアシハラガニ	準絶滅危惧
オサガニ	準絶滅危惧
ヨモギホンヤドカリ	準絶滅危惧
イトメ	情報不足

★ 貴重な生物や植物の宝庫、大切な和白干潟をラムサール条約の登録湿地にして、守っていきたいと願っています。

活　動　日　誌

（山之内　芳晴）

●2020年3月
3/3　（火）　和白干潟通信134号編集会議
3/8　（日）　和白海岸探鳥会（日本野鳥の会）･･･関係者のみで観察
3/24　（火）　和白干潟通信134号編集会議
3/28　（土）　和白干潟クリーン作戦と自然観察（関係者のみで清掃）
●2020年4月
4/5　（日）　2020年春期シギ・チドリ調査1回目（今津）
4/7　（火）　2020年春期シギ・チドリ調査1回目（博多湾東部）
4/12　（日）　和白海岸探鳥会（日本野鳥の会）･･･関係者のみで観察
4/14　（火）　干潟通信134号発送会
4/21　（火）　2020年春期シギ・チドリ調査2回目（博多湾東部）
4/25　（土）　和白干潟クリーン作戦と自然観察（関係者のみで清掃）
4/30　（木）　2020年春期シギ・チドリ調査2回目（今津）
●2020年5月
5/3　（日）　2020年春期シギ・チドリ調査3回目（今津）
5/10　（日）　和白海岸探鳥会（日本野鳥の会）･･･関係者のみで観察
5/22　（金）　2020年春期シギ・チドリ調査3回目（博多湾東部）
5/23　（土）　和白干潟クリーン作戦と自然観察（関係者のみで清掃）
●2020年6月
6/11　（木）　「和白干潟保全のつどい」会議参加
6/14　（日）　和白海岸探鳥会（日本野鳥の会）･･･関係者のみで観察
6/27　（土）　定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
●2020年7月
7/7　（火）　和白干潟通信135号発行延期のお知らせの手紙発送
7/9　（木）　「和白干潟保全のつどい」会議参加
7/11　（土）　山・川・海の流域会議参加
7/12　（日）　和白海岸探鳥会（日本野鳥の会）･･･関係者のみで観察
7/25　（土）　定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
●2020年8月
8/2　（日）　2020年秋期シギ・チドリ調査1回目（今津）
8/9　（日）　和白海岸探鳥会（日本野鳥の会）･･･関係者のみで観察
8/12　（水）　「和白干潟保全のつどい」会議参加
8/19　（水）　2020年秋期シギ・チドリ調査1回目（博多湾東部）
8/22　（土）　定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
8/31　（月）　和白干潟通信135号編集会議

干潟のつぶやき「和白干潟のプラスチックゴミ」

7月1日からレジ袋の有料化がスタートしました。経産省のホームページでは、レジ袋有料化の目的について「普段何げなくもらっているレジ袋が本当に必要かを考えていただき、私たちのライフスタイルを見直すきっかけとする」としています。和白干潟では、守る会の人たちが毎月ゴミ拾いをしていますが、どのようなプラスチックゴミがあるのでしょうか。2020年のゴミデータ調査によれば、ペットボトル344個、食品の包装・袋92個、食品の容器246個、レジ袋136個となっています。これらのプラスチックゴミは、拾われなければマイクロプラスチックとなって、海や干潟の生きものたちにダメージを与えます。ペットボトルやレジ袋、食品容器などは大きいため回収され易いですが、小さなお菓子やあめ玉などを包んでいる「食品の包装・袋」は回収が難しいですね。レジ袋が有料化されてスーパーなどではマイバッグを持ってくる人が増えています。これからは商品を包装しないこと、廃棄されるプラスチックゴミはリサイクルすることが必要ですね。北九州市や古賀市ではプラスチックゴミはリサイクルされています。福岡市ももっとリサイクルを進めてほしいですね！

和白干潟のゴミ

活　動　報　告

（山之内 芳晴）

★ 9月26日（土）ビーチクリーンアップ・ゴミデータ調査

国際ビーチクリーンアップは世界的規模で一斉にゴミ調査をする催しです。９月２６日のクリーン作戦では、５０名が参加し116袋のゴミを回収しました。海岸の人工ゴミを1時間拾い集め、その後人工ゴミを分類調査する班とアオサや自然ゴミを回収する班に分かれました。人工ゴミは25種類に分類し集計しました。特に多かったのは、今、社会で問題となっているプラスチックゴミの「ペットボトル」で、その次に多かったのは「飲料缶」でした。調査には九産大宗像ゼミや澤田ゼミの方々の協力がありました。

★ 和白干潟の水質・砂質調査結果

表は２０２０年4月から２０２０年9月までの水質調査と砂質調査結果です。水質調査についてはリン・亜硝酸とも色見本の最低ランクであり、また、CODも「4」の月が4回あり水質は少し良い状態です。透視度は5月～7月が悪く全体的にはやや悪い状態です。砂質調査については、表層酸化層の厚さが浜辺から１０メートル地点の方が薄いです。浜辺側が汚れているのです。

水質調査結果　（2020年4月～2020年9月）

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン（PO_4）	mg／l	0.02	0.02	0.05	0.02	0.05	0.02
化学的酸素要求量（COD）	mg／l	4	4	5	4	5	4
亜硝酸（NO_2）	mg／l	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005
透視度	cm	100	40	35	65	100	100

砂質調査結果　（2020年4月～2020年9月）

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
10㍍地点 表層酸化層の厚さ	mm	13	9	5	3	3	3
還元層の黒色度	ー	14	14	14	14	14	14
150㍍地点 表層酸化層の厚さ	mm	33	20	6	5	3	5
還元層の黒色度	ー	13	13	13	14	13	13

★ 唐原川・和白川の水質調査結果

唐原川・和白川については２０１５年5月からリン酸イオン、化学的酸素要求量、亜硝酸について水質調査を行っています。結果については以下の表に示されるように、いずれの値についても和白干潟に比べて汚れており、唐原川の方がやや高い値を示しています。

唐原川　水質調査結果　（2020年4月～2020年9月）

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン（PO_4）	mg／l	0.05	0.05	0.02	0.05	0.05	0.05
化学的酸素要求量（COD）	mg／l	5	6	6	9	10	12
亜硝酸（NO_2）	mg／l	0.005	0.010	0.005	0.005	0.005	0.005

和白川　水質調査結果　（2020年4月～2020年9月）

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン（PO_4）	mg／l	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
化学的酸素要求量（COD）	mg／l	4	5	5	8	6	7
亜硝酸（NO_2）	mg／l	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005

●気が付いたらあなたも電話してください！

▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時
092-282-7146（港湾空港局・維持課）

▼沖のアオサをとってほしい時
092-282-7153（港湾空港局・みなと環境政策課）

＊＊ ***お　願　い*** ＊＊

●干潟でのゴルフやラジコンの練習、ドローンの使用はやめましょう！ とても危険です。

●干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう！
（ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止）

●弱った野鳥を見つけた時→ 092-513-5611　福岡県筑紫保健福祉環境事務所 地域環境課
092-643-3367　福岡県環境部 自然環境課 野生生物係

★お知らせコーナー★

（田辺 スミ子）

★定例スケジュール★

●定例会議（10/24，11/28，12/19）

毎月第４土曜日12時～14時　守る会事務所にて開催。
※12月は第３土曜日。

以下は参加自由です！ 仲間が待ってます！

●クリーン作戦と自然観察（10/24，11/28，12/19）

毎月第４土曜日15時～17時　和白干潟・海の広場集合
※長靴があると便利。駐車場なし。12月は第３土曜日。

●和白海岸探鳥会（11/8，12/13，1/10）

毎月第２日曜日９時～12時　ＪＲ和白駅前の和白公園集合
主　催：日本野鳥の会福岡支部
参加費：一般は300円、中学生以下は無料　駐車場なし

★会員募集中！
年会費　個人 2,000円
　　団体 5,000円
★カンパの協力お願い
郵便振替　01720-4-23860
和白干潟を守る会

★ボランテイアへのお誘い★

和白干潟を守る会のボランテイア活動に参加しませんか？

和白干潟の清掃、鳥類調査のお手伝い（車の運転や記録）、観察会のお手伝い（写真撮影）などです。

和白干潟の鳥たち（その91）

キアシシギ（チドリ目 シギ科／Grey-rumped Sandpiper）黄脚鷸

（写真撮影：三宅 僚）

キアシシギは和白干潟には旅鳥として、春と秋に立ち寄ります。春には成鳥は夏羽で、胸の灰色の斑点が濃くはっきりしています。秋には胸の斑点は薄くなります。脚は黄色で少し短めです。中型のシギで、和白干潟では最も多い渡りのシギです。特に秋の方が多く、7月から9月頃に観察されます。まだ暑い中、秋の気配を運んで来る鳥です。よく通る声で「ピューイ」と鳴き、涼し気です。

英名は「おしゃべりな鳥」という意味だそうです。干潟やクリークでカニやハマトビムシなどを食べています。満潮で干潟が無くなると護岸などで休みますが、低い木の上で休むこともあります。これからもずっと和白干潟に来てほしいですね。（山本 廣子）

守る会問い合わせ窓口　★ホームページ：http://wajirohigata.sakura.ne.jp/

◎入会／ 観察会（申込等）	山之内 芳晴	Tel. 090-8412-2663
◎クリーン作戦	田辺 スミ子	Tel. 090-1346-0460
◎広報／調査／定例会議	山本 廣子	Tel/Fax. 092-606-0012
◎干潟まつり	中嶌 伸子・松尾 満子	Tel.080-1701-8907（中嶌）

【編 集】田辺 スミ子・中嶌 伸子・山本 廣子・山之内 芳晴・有江 圭子
《カット》くすだ ひろこ　　★次号は２０２１年1月に発行予定★

＊＊

【編集後記】

コロナの影響で多くの活動が制約を受けている今、どのようなことをこの干潟通信で伝えていけばいいのかと話し合い、検討して編集しました。先が見えない状況ではありますが、一人一人が感染防止に注意し、出来ることを、出来る形で、活動を継続していくことが大事だと感じています。守る会のホームページの鳥や植物の写真を見ると癒されています。（有江）

◎この干潟通信は（公財）イオン環境財団の助成を受けて作成しました。